

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3190100549		
法人名	とっとり福祉サービス有限会社		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム三希堂		
所在地	鳥取県鳥取市行徳2丁目445番地1		
自己評価作成日	令和2年年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690">http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいおらいと		
所在地	鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和3年1月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者様の個性を尊重し、職員も同じ家族として家庭的な生活、楽しく安心して暮らしていけるよう取り組んでいます。 また、自宅と同じように自立した日常生活を送ることが出来るような支援に努めています。地域との交流の機会を増やし、地域の一員としての生活を目指します。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>市街地中心部の住宅街にあるホームです。ホームは、民家を改造し二階建てでエレベーターも設置されてあります。職員は30代、50代を中心に構成され、認知症ケアの経験の浅い職員もおられますが、経験の豊富な職員も含め管理者を中心として利用者の方への支援の充実に努めておられます。夜勤は職員二人体制であり手厚い支援が行われています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やリビング等見やすい場所の3カ所に掲示するとともに、申し送り時に唱和をして共有している。	理念は事業所内3箇所に掲示され、職員は毎日朝の申し送り時に唱和し、理念の共有に努めておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園の落ち葉拾い、納涼祭への参加など地元の方から地域の行事等の情報を得て機会あるごとに参加している。今年度は行事が中止され参加できていない。	これまで公園の落ち葉拾いや納涼祭等の行事に参加されていますが、今年度はすべての行事が中止になっています。また、防災訓練などにも参加されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域に向けて積極的に認知症について発信することはしていないが、今後地域の方から認知症の対応等について聞かれた場合は対応していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議は書面で行っている。メンバーに推進会議で検討したい内容や意見について出してもらい、事業所が集約して対応している。	現在、運営推進会議は書面で行なわれています。会議前にメンバーに話し合いの内容や意見が聞かれています。具体的な意見としてコロナ対策や食事内容等があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは利用者のことでいろいろと相談をしてアドバイスを貰ったりしている。	案件等に対し西地域包括支援センター、市担当者からアドバイス等を受けながら対応されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事は契約書に明記し職員研修も行なっている。現在、対象となる利用者はいない。	現在、該当者はいませんが、身体拘束を行う場合はマニュアルに基づき対応し、ケアプランの変更等も行われます。身体拘束の研修は法人内で行い施設で勉強会をされていますが、外部研修には参加されていません。	身体拘束のケアについての理解を深めるためにも外部での研修に参加されることに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部への参加や事業所内での研修を行う等、普段からの言葉使い、マナーにも気を付け、日中でも気が付いたことは、注意し促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所として、成年後見人制度利用の利用者もおられ後見人の方に、契約等の説明をしたり、金銭管理面で連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人と家族に契約書を元に説明を行い、理解・納得を図り契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された折には積極的に声をかけをし、いろいろとお伺いしており、意見は運営に活かしている。今年度「三希堂だより」はコロナ渦で活動ができないため発行できていない。	家族が来所されたり電話連絡の際に利用者、家族の要望等を聞かれています。今年度、コロナ渦で外出等活動ができないため「三希堂だより」は発行されていません。	家族アンケートからも利用者の日ごろの様子等について知りたいとの意見もあります。これからも三希堂だよりを活用した情報提供等が必要と考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談は随時行っており、日常の業務の中で職員の意見を聞いている。	職員面談は定められていませんが、日々の業務の中で意見を聞き運営等に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週に一度管理者から報告を受け、現場の把握に努めている。又、意見を聞き対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇、マナー等の外部研修には、積極的に参加するように勧めており、参加後も、内部研修にて伝達等も行ってケアに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内の研修や、懇親会等には職員を出席させているが、相互訪問等は、まだ行っていない。運営推進会議には「はまゆう」の職員に参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人・ご家族に不安なこと、要望等話を聴くようにして、生活状況を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご本人・ご家族に面会し、不安や要望をしっかりと聴いて、不安等を取り除くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や希望、また本人の要望等を聴いた上で、本人の出来ることを支援し、維持できるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に出来る事(食器洗い・洗濯たたみ・ゴミ捨て・掃除等)を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内の大きな行事等は、ご家族の参加をお願いし、面会時には、近況(写真等活用)を報告する等しているが、面会は少ない。 本人・家族と職員の関係を大切にしながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族については面会もあり、自宅に帰ったり受診、外食等されている。また、買い物に行ったり、地域にドライブに行ったり、馴染みの関係・機会を多く設けるようにしている。	家族等の面会もあり、自宅で食事をしたり、受診や外食、ドライブへ出かけられています。また、施設の毎週のゴミ出しの同行や市内をドライブする機会を作る工夫もしております。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には職員が声掛けをし、皆と過ごせるような配慮をしたり、一緒にテーブルでお茶を飲んだり、その人なりの特性を把握出来るよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、見取りは行っていません。今後見取りが必要になる場合は、協力医に相談していきたい。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者本人の思いを聞き出し又ご家族からも聞いて本人の思いを活かす取り組みをしている。	日々の生活の中で利用者のニーズを聞くとともに、利用者本人の判断が難しい場合は、電話、面会時に家族から聞きながら、希望に沿った対応に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報収集し、その人の行動の基となるものの理解に努めている。又、馴染みの家具や写真を飾ったりして環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のなかで個々の生活ペースを把握し、手すりを使って立位訓練をするなど、個人の有する力が減退しないよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見や要望を聞き取り、介護計画に反映している。担当者会議に参加出来ない職員からの意見も事前に収集している。	本人、家族、関係者からの意見を反映して全体会議でモニタリング行い、その結果を参考にケアマネジャーが介護計画を作成しています。計画の見直しは3~5か月ごとに行われます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々の様子、ケアの実践結果、「申し送りノート」に気づき等を記録し、ニーズ・状態変化があれば、介護計画の変更も合わせて行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望、都合にあわせて通院、散髪等の支援や地域行事、買い物等、柔軟かつ多機能的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じた買い物支援、地域の清掃やラジオ体操等への参加を行っている。理美容については、外部の福祉サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、かかりつけ医への通院介助はご家族と協力して行っている。受診結果は申し送りノート等で伝え共有できている。歯科については現在対象者はいないが、必要時には協力が得られる体制ができている。	協力医、かかりつけ医への受診は家族と協力して行われます。受診の結果については、申し送りノートで共有が図られています。口腔ケアについては、歯科衛生士の資格を持つ職員が行っています。必要時には歯科医の協力体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時利用者の状態を観察し、異常時の早期発見に努め、同法人の看護師や協力医の看護師に相談し、助言をもらっている。受診・往診時には協力医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師の方々と相談するなど定期的に情報交換を行い、又、医師から御家族への話がある場合は、可能な限り同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいく。	現在、看取りはおこなっていない。重要事項説明書にも明記している。	現在、看取りは行なわれていません。前回の外部評価結果を受け重要事項説明書にも明記されました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており対応が出来るようにしている。緊急時には協力医へ連絡をとれるよう確認をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは作成している。年2回自主避難訓練と消火器の使い方等の訓練を実施している。	火災を想定した避難訓練が行なわれていたますが、それ以外は行われていません。水害の指定区域となっており、避難場所はトスク2階、野の花の診療所2階となっていますが、事業所の2階への垂直避難が現実的と考えられています。	水害の指定地域ということもあり、避難訓練の充実や消防との連携が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや引き継ぎの時に利用者の秘密等について話さないよう確認している。言葉使い等に気をつけ配慮している。	入浴は同性の職員が対応し、プライバシーへの配慮もされています。言葉使いなどについても職員同士で指摘し合える関係性があります。個人情報は見えない場所に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、訴えがある時は、利用者の話に耳を傾け、本人の思いや希望に添えるような支援をしている。また、できる限り選択できる問いかけを行うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、その人のペース・体調を見ながら、本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の意向を大切にしており、整髪・洗面などは声かけをしている。起床・入浴・排泄後等の身だしなみには気をつけ利用者本位の希望を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭き等は出来る利用者に行ってもらっている。誕生会にはケーキを作って、職員も一緒に話しをしながら楽しい食事となっている。食器はできる限り個人の要望に沿った陶器を使用している。	副食は同法人のサポートセンターから配達されたものを利用者と盛り付けたり、食器洗い、テーブル拭きなど出来ることは一緒に行われます。食器もできる限り利用者の要望に対応し楽しい食事となるよう工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量とも毎日記録しており不足がちな利用者には食事・水分量のバランスを考え提供支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては歯科衛生士が中心に行なっている。居室にて自立されている方もあり、できない方は声かけ・準備し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導し支援している。最近、リハビリパンツから布パンツに見直し出来た利用者がある。失敗してしまった利用者には、部屋やトイレに誘導し、他の利用者にわからないように声掛け対応している。	排泄は約4名が自立されています。他の利用者については、状況に応じてトイレ誘導や声かけが行われます。失敗時には他の利用者にわからないように対応が行われます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、乳酸菌、繊維を多く含む食品、又、水分量チェック、運動をすすめている。便秘の方には協力医と連携して対応し、予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は体調等にに合わせて入浴できるように対応している。入浴を嫌がられる人に対しては、職員を変えたり、声掛けによって支援している。	入浴は朝のバイタルチェックを参考に週2回行なわれます。希望により入浴も対応されています。また、入浴を嫌がる利用者に対して職員や入浴日の変更を行うなど個々の状況に沿った支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自分のペースで過ごしていますが、日中はなるべくホールで活動していただくよう支援している。レクリエーションは参加できる利用者が少なく実施が難しい状況である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて薬の理解を共有して、配薬・服薬のダブルチェックを行い、本人服用を職員が確認している。薬の変更があれば申し送りノートに記載して情報共有ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人から話を聞いたり、出来る事を確認して、できる環境を作り出している。いままでの生活習慣の中で、その方に合った出来る事(掃除、洗濯たたみ、洗い物)をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜土手をドライブしたり、天気の良い日は近くの公園や出掛けている。車いすの利用者にも外出支援している。昨年度までは、野の花診療所のカフェにも利用者と一緒にいられていました。	天気の良い日は隣接している公園やドライブに出かけてられています。以前は野の花診療所のカフェにも利用者と一緒にいられていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に本人の希望に応じて商品を購入したり、職員が代わりに買い物をするなどしている。御家族には月ごとに伝えるとともに領収書などを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望があればいつでも電話を掛けられるよう支援しているが、かかってくることが多い。また、家族様がかけてほしくない場合には、職員が個別にしている。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を設置し業務日誌に記入している。玄関に鉢植えの花を置いたり居室の壁などに利用者の作品、写真等を飾って季節感ができるよう工夫している。施設内はきれいに清掃している。	温湿度計を設置し空調管理が行われています。また、利用者と一緒に掃除をするなど快適に生活できる環境調整を行ってられます。玄関に鉢植えの花を置いたり居室の壁などに利用者の作品、写真等を飾り季節感ができるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などフロア以外にもソファや椅子を設置し、御利用者が思い思いに過ごせる場所、ゆったり過ごせる場所を設置するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真、家具、仏壇等馴染みの物が持ち込まれている。家族の作品を飾ったり、ハンガーの位置等が利用者の希望に合わせ工夫している。	居室には写真、家具、テレビ等利用者の馴染みの物があります。利用者が居心地よく生活できるよう配慮して、使用していた筆筒や布団などの持ち込みも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事を職員が見極め、環境設定をしている。風呂・便所の表示等目印をつけている。		